

【プレゼンテーション資料】

2009年9月中間期 連結業績のご説明

ソニーフィナンシャルホールディングス株式会社
2009年11月16日

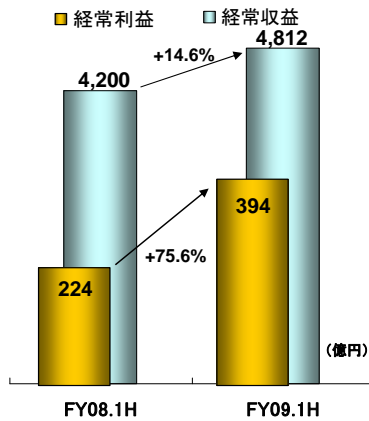
表紙

免責事項:

このプレゼンテーション資料に記載されている、当社グループの現在の計画、見通し、戦略、確信などのうち、歴的事実でないものは、将来の業績に関する見通しです。将来の業績に関する見通しは、将来の営業活動や業績、出来事・状況などに関する説明における「確信」、「期待」、「計画」、「戦略」、「見込み」、「予測」、「予想」、「可能性」やその類義語を用いたものに限定されません。口頭または書面による見通し情報は、現在入手可能な情報から得られた当社グループの経営者の判断にもとづいています。実際の業績は、様々なリスクや不確実な要素により、これら業績見通しと大きく異なる結果となりうるため、これら業績見通しに依拠することは控えるようお願いします。また、新たな情報、将来の事象、その他の結果にかかわらず、常に当社グループが将来の見直しを見直すとは限りません。また、このプレゼンテーション資料は日本国内外を問わず一切の投資勧誘またはそれに類する行為のために作成されたものではありません。

免責事項

連結業績ハイライト



(億円)		FY08.1H	FY09.1H	前年同期比	
生命保険事業	経常収益	3,721	4,326	+605	+16.3%
	経常利益	200	363	+163	+81.3%
損害保険事業	経常収益	307	339	+32	+10.7%
	経常利益	11	15	+3	+30.3%
銀行事業	経常収益	177	153	▲24	▲13.7%
	経常利益	11	14	+3	+28.2%
全社又は消去	経常収益	▲5	▲7	▲1	—
	経常利益	0	0	▲0	▲26.9%
SFHG連結	経常収益	4,200	4,812	+611	+14.6%
	経常利益	224	394	+169	+75.6%
	中間純利益	121	233	+112	+92.0%

(億円)		08.9末	09.3末	09.9末	前年度末比	
SFHG連結	総資産	53,043	53,136	55,847	+2,710	+5.1%
	純資産	1,989	2,048	2,499	+451	+22.0%

金額は単位未満切捨て、増減率は四捨五入で表示

2

まずはじめに、ソニーフィナンシャルホールディングスグループの連結業績についてご報告します。

連結経常収益は、前年同期比14.6%増加し、4,812億円となりました。

各事業の経常収益は、生命保険事業では16.3%増加し4,326億円、損害保険事業は10.7%増加し339億円、銀行事業は13.7%減少し153億円となりました。

次に、連結経常利益は、前年同期比75.6%増加し、394億円となりました。

各事業の経常利益は、生命保険事業で81.3%増加し363億円、損害保険事業は30.3%増加し15億円、銀行事業は28.2%増加し14億円となりました。

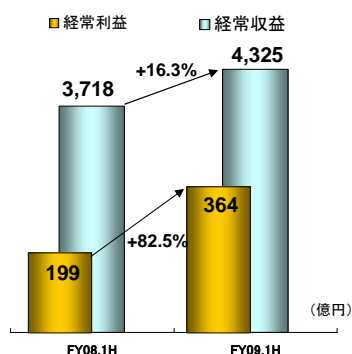
以上の結果、連結中間純利益は、前年同期比92.0%増加し、233億円となりました。

次のスライド3には各事業セグメント毎の業績の要旨をまとめております。

連結業績ハイライト

- 生命保険事業では、保有契約高の堅調な推移により保険料等収入が増加したこと、および比較的良好な金融市場環境下において資産運用収益が増加したことにより、経常収益は増加。経常利益は、保険料等収入の増加、一般勘定資産の運用益の増加、変額保険の最低保証にかかる責任準備金繰入額が戻入に転じたことなどにより増加。
- 損害保険事業では、主力の自動車保険で保有契約件数が伸張したことによる正味収入保険料の増加により経常収益は増加。経常利益も、経常収益の増加および事業費率の低下などにより増加。
- 銀行事業では、経常収益は世界的な金利低下の影響により減少したものの、資金調達費用の減少および住宅ローンの順調な増加等により資金運用収支が改善したことから、経常利益は増加。
- 連結経常収益は、前年同期比14.6%増加の4,812億円。連結経常利益は、前年同期比75.6%増加の394億円。中間純利益は、前年同期比92.0%増加の233億円。

ソニー生命 業績ハイライト(単体)



【ソニー生命】

- ◆前年同期比 増収増益
- ◆保有契約高の堅調な推移により保険料等収入が増加
- ◆資産運用収益は増加
- ◆経常利益は、保険料等収入の増加、一般勘定資産の運用益の増加、変額保険の最低保証にかかる責任準備金繰入額が戻入に転じたことにより増加

金額は億円未満切捨て、増減率は四捨五入で表示

(億円)	FY08.1H	FY09.1H	前年同期比	
経常収益	3,718	4,325	+606	+16.3%
保険料等収入	3,270	3,393	+122	+3.8%
資産運用収益	432	915	+482	+111.6%
うち利息及び配当金等収入	269	329	+59	+22.1%
うち金銭の信託運用益	68	95	+27	+40.6%
うち有価証券売却益	82	97	+14	+17.9%
うち特別勘定資産運用益	-	381	+381	-
経常費用	3,518	3,960	+442	+12.6%
保険金等支払金	1,258	1,344	+85	+6.8%
責任準備金等繰入額	1,408	1,973	+565	+40.1%
資産運用費用	329	107	▲222	▲67.5%
うち有価証券売却損	13	53	+39	+294.3%
うち有価証券評価損	29	-	▲29	-
うち特別勘定資産運用損	241	-	▲241	-
事業費	468	475	+6	+1.4%
経常利益	199	364	+164	+82.5%
中間純利益	108	217	+108	+100.2%

(億円)	08.9末	09.3末	09.9末	前年度末比	
有価証券残高	24,490	28,196	30,872	+2,676	+9.5%
責任準備金残高	35,148	35,923	37,872	+1,949	+5.4%
純資産額	1,351	1,407	1,732	+325	+23.1%
その他有価証券評価差額金	213	40	217	+177	+442.8%
総資産額	37,853	38,109	40,420	+2,310	+6.1%
特別勘定資産	3,100	2,751	3,318	+566	+20.6%

4

まず、ソニー生命単体の業績ハイライトについてご説明します。

ソニー生命の経常収益は、保有契約高の堅調な推移により保険料等収入が増加したこと、および資産運用収益の増加などにより、前年同期比**16.3%増**の**4,325億円**となりました。

保険料等収入は、保有契約高の増加にともない前年同期比**3.8%増**の**3,393億円**となりました。資産運用収益は、特別勘定資産運用益の増加、超長期債の購入を推進してきたことによる利息及び配当金等収入の増加などにより、**111.6%増**の**915億円**となりました。

一方、特別勘定の運用が良好であったことによる責任準備金繰入額の増加などによって、経常費用は前年同期に比べ**12.6%増加**し**3,960億円**となりました。

資産運用費用は、前年の特別勘定資産運用損が、今期は運用益に転じたことにより**67.5%減**の**107億円**となりました。

経常利益は、保険料等収入の増加、一般勘定資産の運用益の増加、変額保険の最低保証にかかる責任準備金繰入額が戻入に転じたことなどにより、**82.5%増**の**364億円**となりました。

この結果、中間純利益は前年同期に比べ**100.2%増加**し**217億円**となりました。

ソニー生命 主要業績指標(単体)



(単位:億円)	FY08.1H	FY09.1H	増減率
新契約高	18,947	18,184	▲4.0%
解約・失効高	9,793	10,605	+8.3%
解約・失効率	3.11%	3.27%	+0.16pt
保有契約高	320,654	328,975	+2.6%
新契約年換算保険料	309	320	+3.5%
うち第三分野	65	77	+18.5%
保有契約年換算保険料	5,409	5,584	+3.2%
うち第三分野	1,245	1,296	+4.1%

<主な増減要因>

◆ 主に変額保険の減少による。

◆ 前年同期比では上昇しているものの、前年度下半期(3.67%)と比べると、低下。

◆ 2009年4月発売のがん入院保険の販売好調の効果などにより第三分野が大幅に増加。

	FY08.1H	FY09.1H	増減率
資産運用損益(一般勘定)	344	426	+23.9%
基礎利益	165	285	+72.9%
逆ざや額	106	88	▲17.0%

◆ 利息及び配当金等収入の増加、有価証券売却益の増加などにより、増加。

◆ 利息及び配当金等収入の増加および変額保険の最低保証にかかる責任準備金繰入額が戻し入れに転じたことなどにより増加。

*1)新契約高、解約・失効高、解約・失効率、保有契約高、新契約年換算保険料、保有契約年換算保険料は、個人保険と個人年金保険の合計です。
*2)解約・失効率は、復活契約を失効と相殺せずに算出しています。

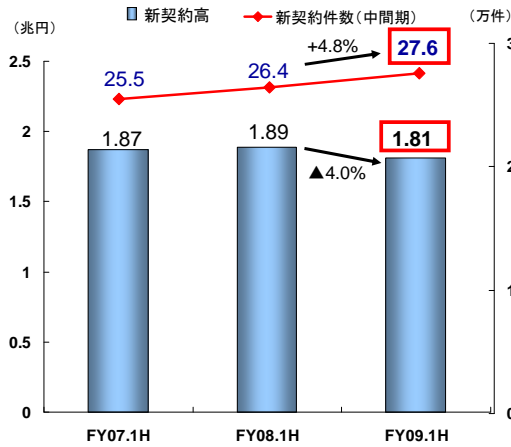
金額は億円未満切捨て、増減率は四捨五入で表示

5

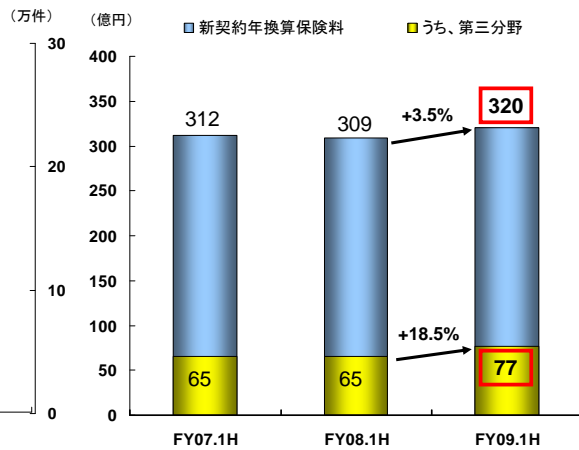
ソニー生命の主要業績指標につきましては、スライドに記載の通りです。

ソニー生命の業績(1)

新契約高・件数 (個人保険+個人年金保険)



新契約年換算保険料(個人保険+個人年金保険)



金額は百億円未満切捨て、件数は千件未満切捨て、増減率は四捨五入で表示

金額は億円未満切捨て、増減率は四捨五入で表示

(左側のグラフ)

棒グラフで示しております、個人保険、個人年金保険を合計した新契約高は、主に変額保険の減少により、前年同期に比べ4.0%減少し、1兆81百億円となりました。

また、折れ線グラフの新契約件数は、4.8%増加し、27万6千件となりました。

(右側のグラフ)

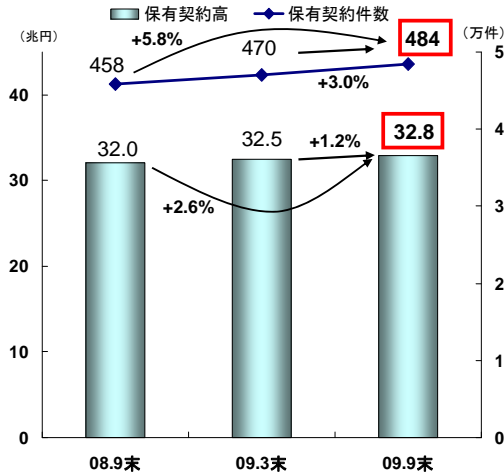
新契約年換算保険料は前年同期に比べ3.5%増加し、320億円となりました。

うち、第三分野は、今年4月に発売した「がん入院保険」の販売が好調であったことなどにより、前年同期に比べ18.5%増加し、77億円となりました

新契約件数および新契約年換算保険料が増加した一方で、新契約高が減少したのは、主に、今年4月に発売し、販売が好調な「がん入院保険」の影響によるものです。この保険は、新契約件数および新契約年換算保険料の計上はあるものの、死亡保障が無いために新契約高の計上はありません。

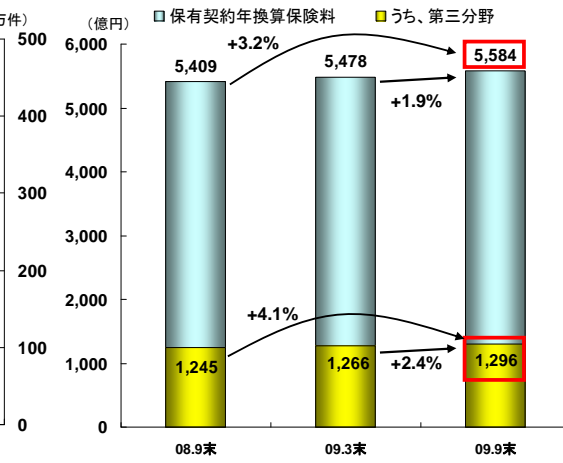
ソニー生命の業績(2)

保有契約高・件数 (個人保険+個人年金保険)



金額は千億円未満切捨て、件数は万件未満切捨て、増減率は四捨五入で表示

保有契約年換算保険料(個人保険+個人年金保険)



金額は億円未満切捨て、増減率は四捨五入で表示

(左側のグラフ)

個人保険、個人年金保険を合計した保有契約高は堅調に推移し、前年同期末に比べ2.6%増加、2009年3月末比では1.2%増加し、32兆8千億円となりました。

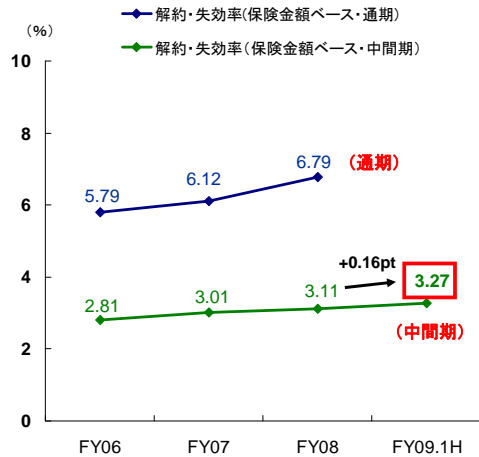
折れ線グラフで示しております、保有契約件数は前年同期末に比べ5.8%増加、2009年3月末比では3.0%増加し、484万件となりました。

(右側のグラフ)

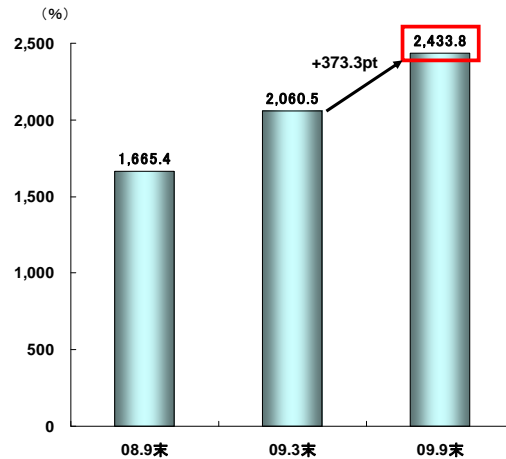
保有契約年換算保険料は、前年同期末に比べ3.2%増加、2009年3月末比では1.9%増加し、5,584億円となりました。このうち第三分野は前年同期末に比べ4.1%増加、2009年3月末比では2.4%増加し、1,296億円となりました。

ソニー生命の業績(3)

解約・失効率* (個人保険+個人年金保険) ＜通期および中間期＞



ソルベンシー・マージン比率



*解約・失効率は、復活契約を失効と相殺せずに出した数値です。

8

(左側のグラフ)

当中間期の解約・失効率は、緑色の線で示しておりますとおり、前年同期比0.16ポイント上昇し3.27%となりました。

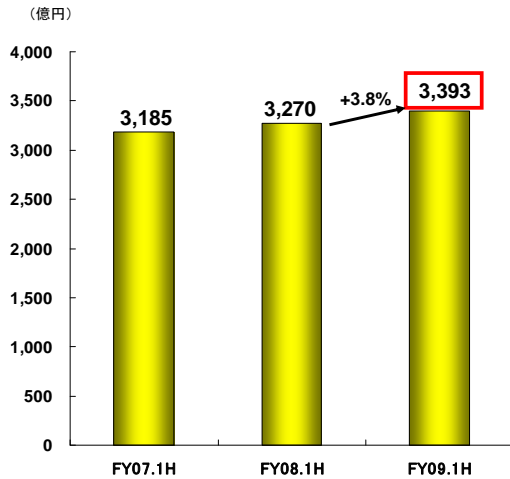
解約・失効率は、前年同期に比べて上昇しているものの、前年度下半期の3.67%と比べると、低下しております。

(右側のグラフ)

ソルベンシー・マージン比率は、保有する国内株式の減少等により、価格変動等リスク相当額が減少したことから、2009年3月末に比べ、373.3ポイント上昇し、2,433.8%となっております。

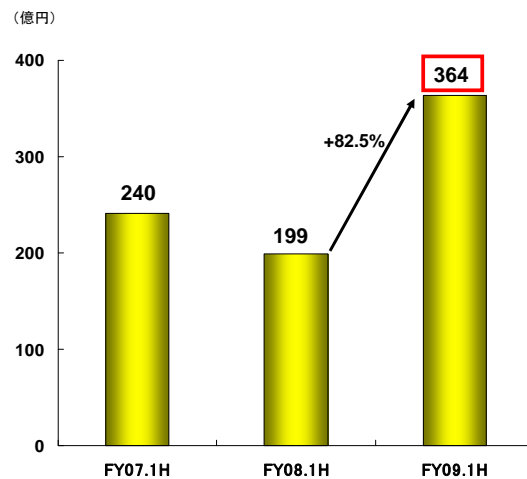
ソニー生命の業績(4)

保険料等収入



金額は億円未満切捨て、増減率は四捨五入で表示

経常利益



金額は億円未満切捨て、増減率は四捨五入で表示

(左側のグラフ)

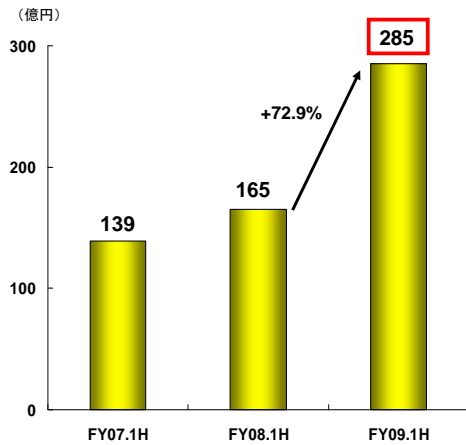
保険料等収入は、保有契約高の順調な増加に伴い、前年同期に比べ**3.8%**増加し**3,393**億円となりました。

(右側のグラフ)

経常利益は、保険料等収入の増加、一般勘定資産の運用益の増加、変額保険の最低保証にかかる責任準備金繰入額が戻し入れに転じたことなどにより、**82.5%**増加し**364**億円となりました。

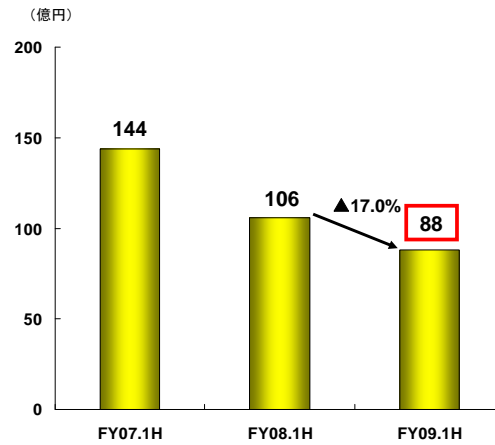
ソニー生命の業績(5)

基礎利益



金額は億円未満切捨て、増減率は四捨五入で表示

逆ざや額



金額は億円未満切捨て、増減率は四捨五入で表示

(左側のグラフ)

基礎利益は、利息及び配当金等収入の増加および変額保険の最低保証にかかる責任準備金繰入額が戻し入れに転じたことなどにより、前年同期に比べ**72.9%**増加し、**285**億円となりました。

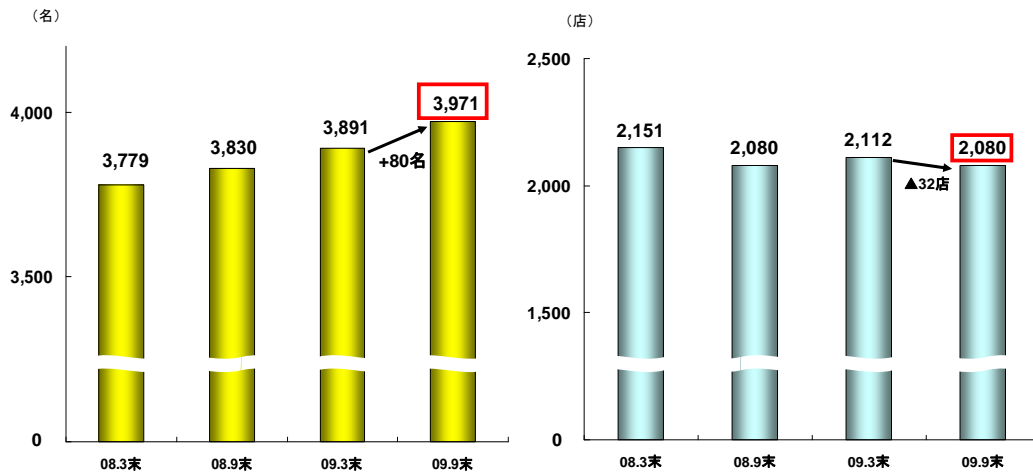
(右側のグラフ)

逆ざや額につきましても、利息及び配当金等収入の増加に伴い、前年同期に比べ**17.0%**減少し、**88**億円となりました。

ソニー生命の業績(6)

ライフプランナー在籍数

代理店数



(左側のグラフ)

2009年9月末時点でのライフプランナー在籍数は、2009年3月末より80名増加し、3,971名となりました。

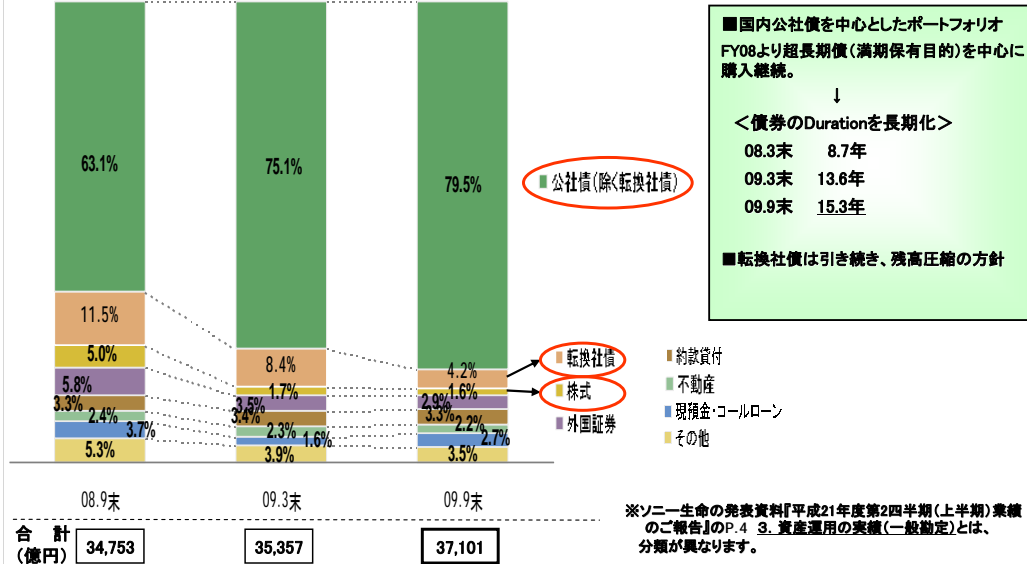
(右側のグラフ)

代理店数は、2009年3月末より32店減少し、2,080店となりました。

ソニー生命の業績(7)

一般勘定資産の内訳【実質ベース】

■ 金銭の信託で運用されている有価証券(公社債、転換社債、株式等)の残高を、各運用資産分類に合算して表示



■ 国内公社債を中心としたポートフォリオ
FY08より超長期債(満期保有目的)を中心に購入継続。
↓
<債券のDurationを長期化>
08.3末 8.7年
09.3末 13.6年
09.9末 15.3年
■ 転換社債は引き続き、残高圧縮の方針

前年同期末および前年度末と対比した当中間期末の一般勘定の資産構成比はご覧のとおりです。

今回より、「金銭の信託」として運用されている運用資産についても有価証券種別に合算した、実質ベースでの一般勘定資産の内訳を表しております。

2008年度より超長期債への投資を推進しており、国内公社債を中心としたポートフォリオとなっております。2009年9月末の一般勘定資産総額に占める公社債の割合は、転換社債を除いたベースで79.5%です。

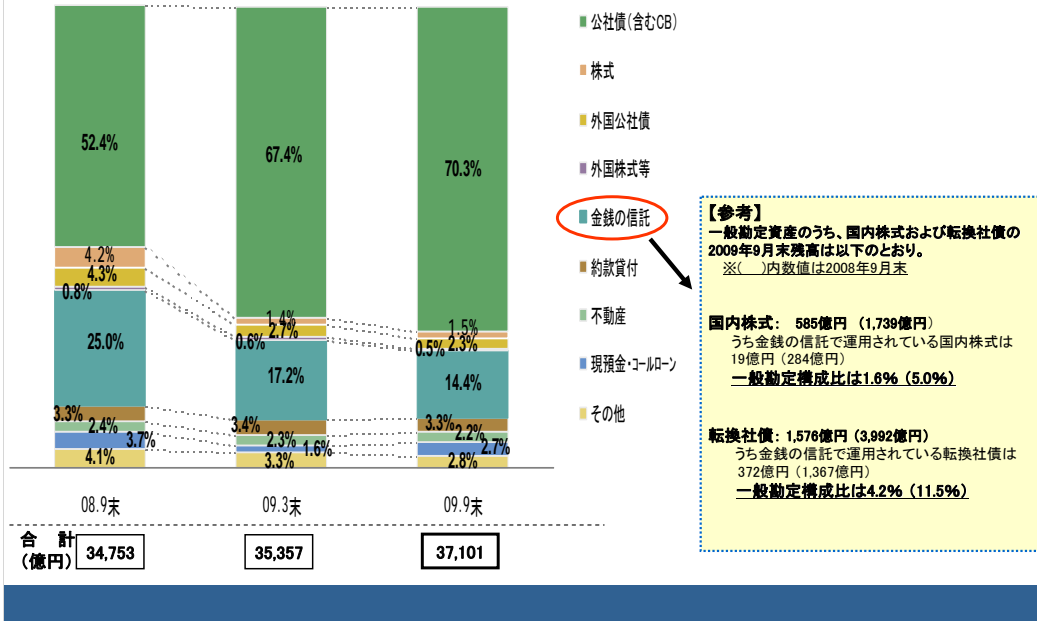
債券のデュレーションの長期化を進めた結果、2009年9月末のデュレーションは15.3年となっております。

2009年度下期においても、引続き超長期債への投資を中心に推進してまいります。

なお、スライド13には、これまでと同様の開示区分での内訳も掲載しておりますので、後ほどご参照ください。

ソニー生命の業績(8)

一般勘定資産の内訳【旧フォーマット】



(一般勘定の資産構成比【旧フォーマット】)

ソニー生命の業績(9)

時価のある其他有価証券の差損益

(単位:億円)

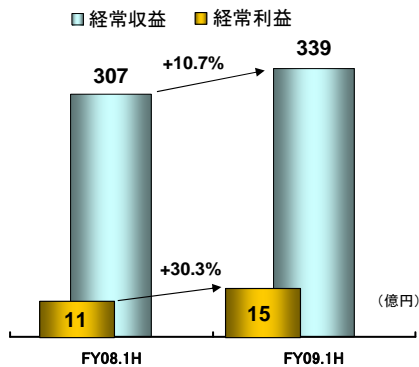
	08.9末	09.3末	09.9末	09.3末比 増減額
公社債	190	269	448	+178
うち転換社債	▲195	▲212	▲27	+184
株式	241	14	77	+63
外国証券	▲121	▲36	▲14	+22
其他証券	19	▲5	9	+15
合計	330	242	521	+279

金額は億円未満切捨て

※金銭の信託に含まれているものも含む。売買目的有価証券および満期保有目的の債券は含まず。
 ※2009年9月末時点で、ソニー生命が保有する転換社債の加重平均価格は96.9円、平均残存期間は2.8年(プット条項を行使した場合の平均残存期間は2.2年)

時価のある其他有価証券の差損益の状況はご覧のとおりです。
 後ほどご覧ください。

ソニー損保 業績ハイライト



【ソニー損保】

- ◆ 前年同期比 増収増益
- ◆ 経常収益は前年同期比10.7%増の339億円。正味収入保険料は、主力の自動車保険で保有契約件数が伸張したことにより、前年同期比10.8%増の336億円。
- ◆ 経常利益は前年同期比30.3%増の15億円。上記増収と事業費率の低下などによる。

(億円)	FY08.1H	FY09.1H	前年同期比	
			増減	増減率
経常収益	307	339	+32	+10.7%
保険引受収益	303	336	+32	+10.8%
資産運用収益	3	3	+0	+6.0%
経常費用	295	324	+29	+9.9%
保険引受費用	220	245	+24	+11.2%
資産運用費用	0	0	▲0	▲6.8%
営業費及び一般管理費	74	78	+4	+5.9%
経常利益	11	15	+3	+30.3%
中間純利益	6	10	+3	+48.0%

(億円)	08.9末	09.3末	09.9末	前年度末比	
責任準備金残高	472	507	554	+46	+9.3%
純資産額	159	136	148	+12	+8.9%
その他有価証券評価差額金	▲1	▲1	0	+1	-
総資産額	843	866	933	+66	+7.6%

金額は億円未満切捨て、増減率は四捨五入で表示

15

ソニー損保の業績ハイライトについてご説明します。

経常収益は、前年同期に比べ**10.7%増加の339億円**となりました。

これは主力の自動車保険における好調な新契約獲得により、保有契約件数が増加して正味収入保険料が増加したことによるものです。

経常利益は、経常収益の増加と事業費率の低下などにより、**30.3%増加の15億円**となりました。

この結果、中間純利益は**48.0%増加の10億円**となりました。

ソニー損保 主要業績指標



(単位:億円)

	FY08.1H	FY09.1H	増減率
元受正味保険料	301	334	+ 10.8%
正味収入保険料	303	336	+ 10.8%
正味支払保険金	141	161	+ 14.6%
正味損害率	52.4%	54.0%	+ 1.6pt
正味事業費率	26.2%	25.2%	▲1.0pt
コンバインド・レシオ	78.6%	79.2%	+ 0.6pt

※正味事業費率=保険引受に係る事業費÷正味収入保険料
 ※正味損害率=(正味支払保険金+損害調査費)÷正味収入保険料

	08.9末	09.3末	09.9末	対前年度末比	
				増減数	増減率
保有契約件数	108万件	115万件	122万件	+ 7万件	+ 6.1%
ソルベンシー・マージン比率	1,096.5%	993.0%	1,033.6%	-	+ 40.6pt

※保有契約件数は、自動車保険とガン重点医療保険の合算値。両方で正味収入保険料の99%を占める

金額は億円未満切捨て、件数は1万件未満切捨て、増減率は四捨五入で表示

16

ソニー損保の主要業績指標は、このスライドに記載の通りです。

ソニー損保 種目別保険引受の状況



正味収入保険料

	FY08.1H	FY09.1H	増減率
火災	8	6	▲23.0%
海上	19	7	▲62.3%
傷害	3,430	3,563	+3.9%
自動車	26,628	29,752	+11.7%
自賠責	265	291	+9.5%
合計	30,351	33,620	+10.8%

元受正味保険料

(単位:百万円)

	FY08.1H	FY09.1H	増減率
火災	165	137	▲16.9%
海上	-	-	-
傷害	3,284	3,442	+4.8%
自動車	26,731	29,868	+11.7%
自賠責	-	-	-
合計	30,181	33,448	+10.8%

正味支払保険金

	FY08.1H	FY09.1H	増減率
火災	0	0	+1.5%
海上	8	1	▲82.3%
傷害	619	705	+13.9%
自動車	13,256	15,216	+14.8%
自賠責	239	258	+7.6%
合計	14,124	16,181	+14.6%

金額は百万円未満切捨て、増減率は四捨五入で表示

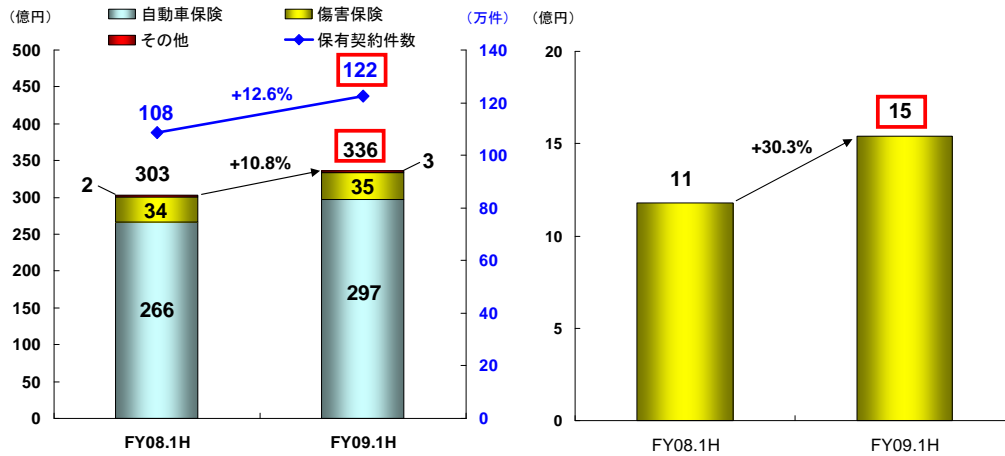
17

このスライドでは、元受正味保険料、正味収入保険料、正味支払保険金の種目別内訳を記載しております。

ソニー損保の業績(1)

正味収入保険料と保有契約件数

経常利益



保有契約件数は、自動車保険とガン重点医療保険の合算値。両方で正味収入保険料の99%を占める。傷害保険の9割以上が、ガン重点医療保険である。

金額は億円、件数は万件未満切捨て、増減率は四捨五入で表示

金額は億円未満切捨て、増減率は四捨五入で表示

(左側のグラフ)

保有契約件数は順調に増加し、自動車保険とガン重点医療保険の合計で前年同期に比べ、**12.6%**増加して**122**万件となりました。

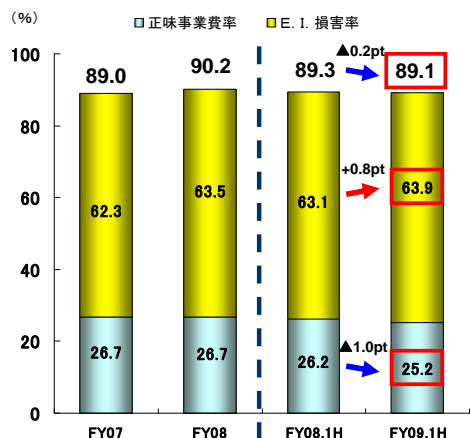
正味収入保険料は前年同期に比べ、**10.8%**増加して**336**億円となりました。

(右側のグラフ)

経常利益は、経常収益の増加と事業費率の低下などにより、**30.3%**増加して、**15**億円となりました。

ソニー損保の業績(2)

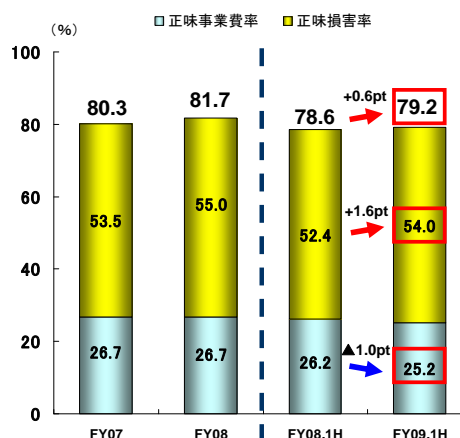
正味事業費率+E.I.損害率



正味事業費率=保険引受に係る事業費÷正味収入保険料
E.I.損害率=(正味支払保険金+支払備金積増額+損害調査費)÷既経過保険料
※除く地震保険、自賠責保険

<参考>

コンバインド・レシオ (正味事業費率+正味損害率)



正味事業費率=保険引受に係る事業費÷正味収入保険料
正味損害率=(正味支払保険金+損害調査費)÷正味収入保険料

(左側のグラフ)

成長段階にあるソニー損保の実態をご理解いただくために、正味損害率を発生ベースでみたアード・インカード損害率についてご説明します。

当中間期のアード・インカード損害率は、保険金支払いが増加したことなどにより、前年同期に比べ**0.8ポイント**上昇の**63.9%**となりました。

また、正味事業費率は、正味収入保険料の増加と経費コントロールにより、前年同期に比べ**1.0ポイント**低下の**25.2%**となりました。

(右側のグラフ)

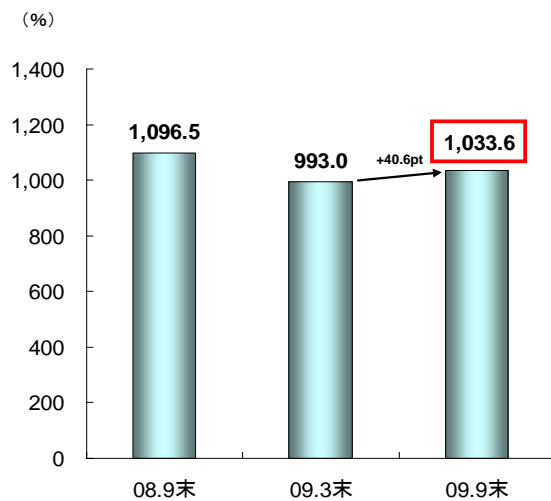
正味損害率は、前年同期に比べ**1.6ポイント**上昇の**54.0%**となりました。

これは保険金支払いが増加したことなどによるもので、支払備金繰入額などを反映していませんのでアード・インカード損害率とは計算方法が異なります。

正味事業費率と正味損害率を合わせたコンバインド・レシオは、前年同期に比べ**0.6ポイント**上昇の**79.2%**となりました。

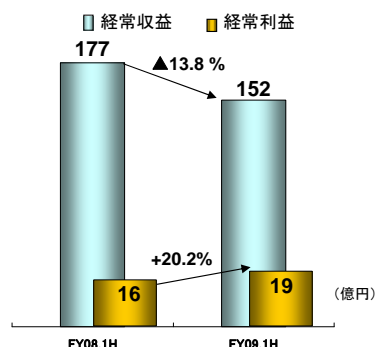
ソニー損保の業績(3)

ソルベンシー・マージン比率



当中間期末のソルベンシー・マージン比率は前年度末に比べ、40.6ポイント上昇の1,033.6%となり、引き続き健全な水準を維持しています。

ソニー銀行 業績ハイライト(単体)



【ソニー銀行】

- ◆前年同期比 減収増益
- ◆業務粗利益は、資金運用収支が増加したことにより、前年同期比11億円増加
- ・資金運用収支:預金金利の低下による支払い預金利息の減少、および貸出金利息の増加等により44億円増加
- ・その他業務収支:主にヘッジ目的で保有している金融派生商品評価損益の悪化等により32億円減少
- ◆中間純利益は、前年同期比1億円増加
- ◆預かり資産残高は前年度末比、276億円増加

(億円)	FY08.1H	FY09.1H	前年同期比	
経常収益	177	152	▲24	▲13.8%
業務粗利益	66	77	+11	+16.8%
資金運用収支	21	65	+44	+209.2%
役員取引等収支	1	0.1	▲0.8	▲88.8%
その他業務収支	43	11	▲32	▲74.2%
営業経費	49	56	+7	+14.3%
経常利益	16	19	+3	+20.2%
中間純利益	9	11	+1	+16.9%
業務純益	16	21	+4	+25.6%

(億円)	08.9末	09.3末	09.9末	前年度末比	
有価証券残高	6,673	8,231	8,045	▲186	▲2.3%
貸出金残高	4,000	4,770	5,343	+572	+12.0%
預金残高	13,382	13,263	13,348	+84	+0.6%
預かり資産残高	14,331	14,036	14,313	+276	+2.0%
純資産額	366	462	574	+112	+24.2%
その他有価証券評価差額金	▲156	▲96	▲0.8	+96	—
総資産額	14,231	14,119	14,451	+332	+2.4%

金額は億円未満切捨て(役員取引等収支、その他有価証券評価差額金を除く)、増減率は四捨五入で表示

21

ソニー銀行の業績ハイライトについてご説明します。

ソニー銀行の経常収益は、世界的な金利低下の影響等により、前年同期と比べ**13.8%減少**し、**152億円**となりました。

業務粗利益は、主にヘッジ目的で保有している金融派生商品の評価損益が悪化したことなどによりその他業務収支が減少したものの、預金金利の低下による支払い預金利息の減少、および貸出金利息の増加などにより資金運用収支が増加したことから、前年同期と比べて**16.8%増加**し、**77億円**となりました。

その結果、経常利益は、前年同期と比べて**20.2%増加**し、**19億円**となりました。

中間純利益は、経常利益が増加したことにより**16.9%増加**し、**11億円**となりました。

ソニー銀行 主要業績指標(単体)①



(単位:億円)

	08.9末	09.3末	09.9末	前年度末比	
				増減額・数	増減率
預かり資産残高	14,331	14,036	14,313	+276	+2.0%
預金	13,382	13,263	13,348	+84	+0.6%
円預金	10,797	10,442	10,208	▲234	▲2.2%
外貨預金	2,584	2,821	3,140	+318	+11.3%
投資信託	949	772	965	+192	+24.9%
貸出金残高	4,000	4,770	5,343	+572	+12.0%
住宅ローン	3,915	4,683	5,259	+576	+12.3%
その他	84	87	84	▲3	▲3.8%
口座数	67.0万件	72.3万件	75.0万件	+2.6万件	+3.7%
自己資本比率(国内基準)*	8.88%	13.37%	13.41%	+ 0.04pt	

* P.26 自己資本比率(国内基準)の推移参照

金額は億円未満切捨て、件数は千件未満切捨て、増減率は四捨五入で表示

22

ソニー銀行の主要業績指標につきましては、このスライドのとおりでございます。

ソニー銀行 主要業績指標(単体)②



■<ご参考>社内管理ベース

単位:億円

	FY08. 1H	FY09. 1H	前年同期比	
業務粗利益	66	77	+11	+16.8%
資金収支*1 ①	57	66	+8	+15.7%
手数料等収支*2 ②	7	6	▲0	▲5.8%
その他収支*3	1	4	+2	+144.4%
コアベース業務粗利益(A) = ①+②	64	72	+8	+13.3%
営業経費等 ③	49	56	+7	+14.3%
コアベース業務純益 = (A)-③	14	16	+1	+11.6%

●社内管理ベース

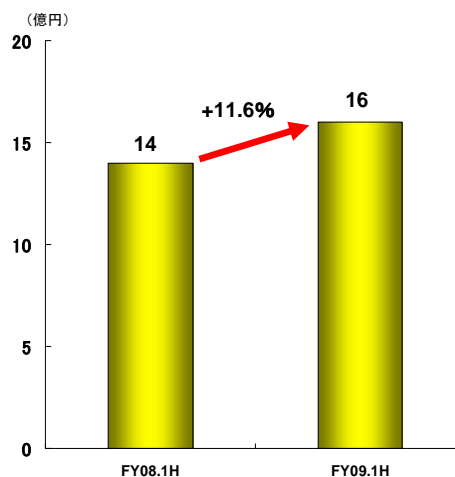
損益の実態をより適切に表すよう、財務会計ベースに以下の調整を加えたもの

- *1 資金収支…資金運用収支+その他業務収支に計上されている実質的な資金運用にかかる損益(為替スワップ収益等)
- *2 手数料等収支…役務取引等収支+その他業務収支に計上されているお客さまとの外貨売買取引にかかる収益
- *3 その他収支…その他業務収支より*1と*2の調整を控除したもので、主な内容は債券関係損益およびデリバティブ関連損益

●コアベース

社内管理ベースのその他収支(主に債券関係損益およびデリバティブ関連損益)を除いたもので、当社の基礎的な収益を表すもの

<ご参考>コアベース業務純益



金額は億円未満切捨て、増減率は四捨五入で表示

23

続いて、本業の収益力をより適切にご理解いただけるよう、財務会計ベースの各収支を調整しました、社内管理ベースの業務粗利益の内訳についてご説明します。

(左側のテーブル)

社内管理ベースの資金収支は、実質的な資金運用にかかる損益を表しています。当中間期においては、収益面では、住宅ローン残高が伸び、貸出金利息が増加しました。

支出面では、世界的な金利低下の影響などにより資金調達費用が減少しました。

これにより、資金収支は、前年同期と比べ8億円増加し、66億円となりました。

社内管理ベースの手数料等収支は、主にお客さまとの外貨売買取引にかかる収益を調整したものです。こちらは、前年同期とほぼ同じ水準の6億円となりました。

その結果、資金収支および手数料等収支からなる、銀行の本源的な収益動向を表すコアベースの業務粗利益は、前年同期に比べ13.3%増加し、72億円となりました。

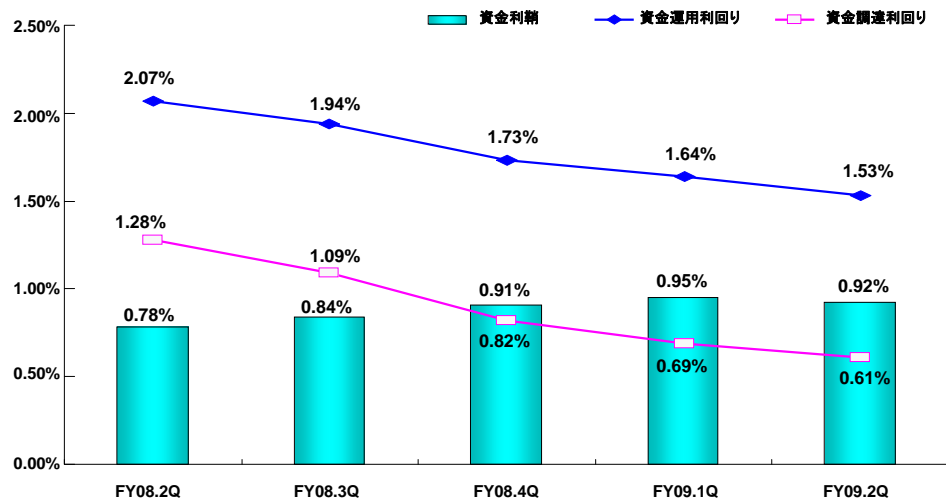
(右側のグラフ)

また、コアベースでの業務純益も、前年同期に比べ11.6%増加し、16億円となりました。

これらコアベースの収益力は、着実に強化されていることがご理解いただけると思います。

ソニー銀行の業績(1)

<ご参考> 資金利鞘の推移(社内管理ベース)



資金利鞘=資金運用利回り - 資金調達利回り
資金運用利回りには、その他業務収支に計上されている為替スワップ損益等が含まれております。

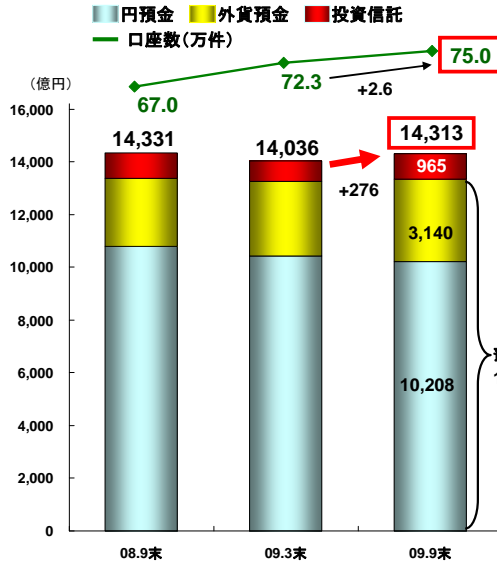
社内管理ベースの資金利鞘についてご説明します。

世界的な金利低下を受けて、資金調達利回りは継続的に下落しております。一方、住宅ローン残高の好調な伸びなどにより、資金運用利回りの低下は相対的に緩やかなものに留まっています。

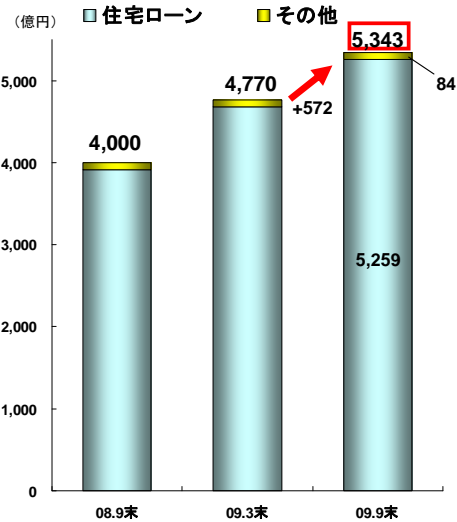
結果として、資金利鞘は0.9%台で安定して推移しております。

ソニー銀行の業績(2)

預かり資産残高(預金+投資信託)および口座数



貸出金残高



金額は億円未満切捨て、件数は千件未満切捨て

25

業容の推移についてご説明します。

(左側のグラフ)

当中間期末の預金と投資信託を合わせた預かり資産残高は、2009年3月末と比べて276億円増加し、1兆4,313億円となりました。

預金残高は、円預金と外貨預金合計で、1兆3,348億円となり、2009年3月末と比べて84億円増加しました。

投資信託は、965億円となり、2009年3月末と比べて192億円増加しました。

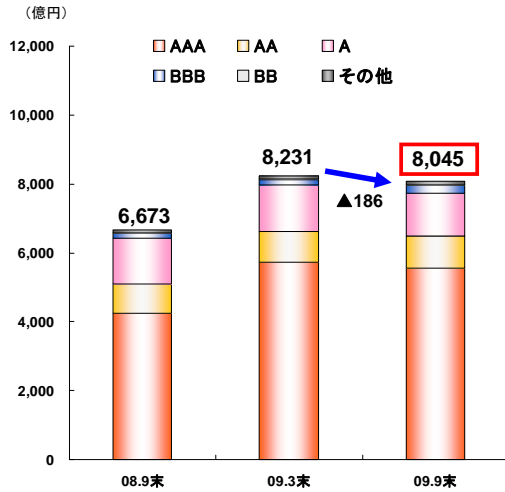
また、口座数は2万6千件増加して、75万件となりました。

(右側のグラフ)

貸出金残高については、住宅ローン残高の順調な伸びにより、2009年3月末と比べて572億円増加し、5,343億円となりました。

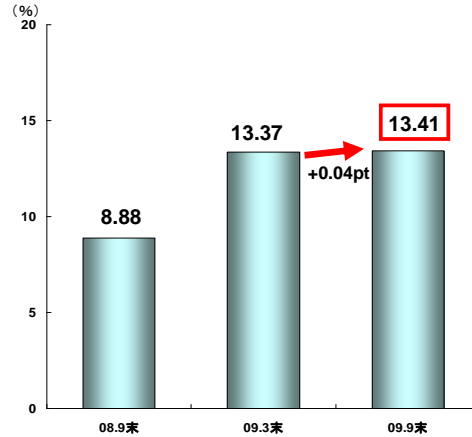
ソニー銀行の業績(3)

格付別の有価証券残高の推移



金額は億円未満切捨て

自己資本比率(国内基準)の推移



※2008年度に、ソニーフィナンシャルホールディングスを引き受け先とする120億円の増資を実施しております。

※平成18年金融庁告示第19号「銀行法第14条の2の規定に基づき、銀行がその保有する資産等に照らし自己資本の充実の状況が適当であるかどうかを判断するための基準」に基づき算出しています。なお、平成21年3月期第3四半期会計期間より「銀行法第14条の2の規定に基づき、銀行がその保有する資産等に照らし自己資本の充実の状況が適当であるかどうかを判断するための基準(平成18年金融庁告示第19号)の特例(平成20年金融庁告示第79号)」を適用しております。

(左側のグラフ)

当中間期末の有価証券残高は、2009年3月末と比べ186億円減少し、8,045億円となりました。

引き続き、高格付けの債券を中心に運用しております。

(右側のグラフ)

自己資本比率は、2009年3月末と比べ0.04ポイント上昇して、13.41%となり、引き続き健全な財務基盤を維持しております。

FY09連結業績予想



(単位:億円 / 実績値の金額は億円未満切捨て、増減率は四捨五入で表示)

	FY09(当初) (通期予想)	FY09(修正) (通期予想)	FY08 (参考)	増減率 FY08 vs FY09(通期予想)
連結経常収益	9,000	9,440	8,603	+ 9.7%
うち生命保険事業	8,087	8,520	7,662	+11.2%
うち損害保険事業	653	663	618	+ 7.1%
うち銀行事業	261	261	333	▲ 21.8%
連結経常利益	460	640	342	+ 86.8%
うち生命保険事業	435	611	325	+ 87.8%
うち損害保険事業	12	20	21	▲ 8.2%
うち銀行事業	13	13	▲ 5	-
連結当期純利益	240	360	307	+ 17.2%

■生命保険事業

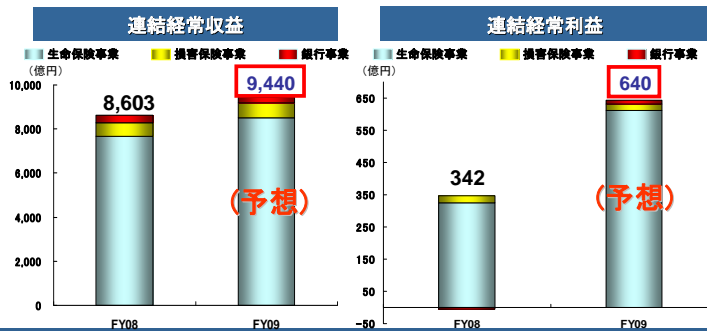
当中間期の業績が前回の予想を上回って推移したことに加え、超長期債の購入を推進してきたことによる利息及び配当金等収入の増加が見込まれることから、通期業績予想を上方修正。

■損害保険事業

当中間期において、自動車保険を中心とした業容拡大が続き、経常収益・経常利益ともに前回の予想を上回って推移したことから、通期業績予想を上方修正。

■銀行事業

当中間期の業績が前回の予想を上回って推移したものの、下期以降の金融市場環境が不透明であることに鑑み、通期業績予想を据え置く。



27

最後に、ソニーフィナンシャルホールディングスの2009年度の連結業績予想について、ご説明します。

当中間期において主として生命保険事業が前回発表の計画を上回って推移したことなどから、10月30日に通期の連結業績予想を上方修正しました。

事業別では、生命保険事業において、当中間期の業績が前回の予想を上回ったこと、および超長期債の購入を進めてきたことによる利息及び配当金等収入の増加が見込まれることから、通期予想を上方修正しました。

また、損害保険事業においても当中間期に自動車保険を中心とした業容拡大が続いて業績が前回予想を上回ったことから、通期予想を上方修正しました。

一方、銀行事業においては、当中間期の業績は前回予想を上回って推移したものの、下期以降の金融市場環境が不透明であることに鑑み、通期予想を据え置きました。

以上で、ご説明を終了します。

補足資料

補足資料

その他トピックス

ソニー銀行におけるソニー生命による住宅ローンの取り扱い状況

■住宅ローン新規融資実行金額の36%

※銀行代理業務取り扱い開始：2008年1月



ソニー損保におけるソニー生命による自動車保険取り扱い状況

■新規自動車保険契約件数の約5%

※自動車保険取り扱い開始：2001年5月



<2009年度第2四半期以降の主な取り組み>

- 2009年 7月 1日 ソニー損保、自動車保険のロードサービスで携帯電話のGPS位置情報通知機能を利用出来るサービスを開始
- 2009年 7月 1日 ソニー生命、台北駐在員事務所を開設
- 2009年 7月23日 ソニー生命、特定非営利活動法人 遺言・相続リーガルネットワークとの業務提携
- 2009年 8月24日 ソニーバンク証券、「信用取引」の取り扱いを開始
- 2009年 8月27日 ソニー銀行、シンジケート・ローン業務への参入に関するお知らせを発表
- 2009年 8月27日 ソニーライフ・エイゴン生命保険株式会社の生命保険業免許取得に関するお知らせを発表
(2009年12月1日営業開始予定)
- 2009年10月 1日 ソニー損保、契約手続に関する電子メールの問合せ(平日9:00~17:00受信分)への3時間以内の返信をお約束するサービスを開始
- 2009年10月13日 ソニー損保、「じぶん銀行」の携帯電話ウェブサイトを通じて自動車保険の商品確認と資料請求が出来るサービスを開始
- 2009年11月 2日 ソニー生命、「優良体・非喫煙者割引特則」の販売を開始

その他トピックス



お問い合わせ先:

ソニーフィナンシャルホールディングス株式会社 広報・IR部
TEL:03-5785-1074

ソニー生命保険株式会社 広報部
TEL:03-3475-8813

ソニー損害保険株式会社 広報部
TEL:03-5744-0330

ソニー銀行株式会社 経営企画部 広報担当
TEL:03-6832-5903

※グループ連結の決算・業績などに関するお問合せはソニーフィナンシャルホールディングスへ、一般および報道関係からの方からの
お問合せで、個別各社の事業に関することは各社広報窓口までお願いいたします。

お問い合わせ先